



みずどう

確かな学力、豊かな心、健やかな身体のバランスのとれた子どもの育成をめざす

令和6年6月号
尼崎市立水堂小学校
尼崎市立水堂町1丁目32-8
TEL(06)6437-3804
<http://www.ama-net.ed.jp/school/E30/index.htm>

大切にしたいもの

新年度も2か月が経ち、6月になりました。昨年度より1年生はスタートカリキュラムを実施しています。この取り組みは4月と5月上旬までの間、1時間目にいきなり国語や算数の授業ではなく、幼稚園や保育園で慣れ親しんだ遊びや図書ボランティアの皆様による読み聞かせを行うことで、小学校に登校するのを楽しみになり、学校生活に少しでも早く慣れることが大切と考え実施しています。4、5月が過ぎ、徐々に慣れてきていると、朝のあいさつで感じます。行事として5月は引き渡し訓練や地区別集団下校、避難訓練を実施しました。いつ起こるか分からない非常変災時に対応するため、年度のできるだけ早い時期にすることが大切と考え5月に実施しました。ご協力ありがとうございました。

さて、6月には水泳指導が始まります。担任時代、水泳が始まると、いよいよ夏休みが見えてきて、ワクワクしていました。1学期も折り返し地点へととなりました。水泳指導を安全に実施するため、大切なお願いがあります。ご家庭におかれまして、お子さまの体調管理や様子を見ていただき、水泳の授業のある日、プールに入れる場合は必ずカードに押印してください。ご協力お願いいたします。

日本の気候区分では、尼崎は瀬戸内海式気候になります。特徴は1年を通して比較的、温暖、少雨と言われます。雨が少ない地域ですが、6月は梅雨前線のおかげで雨の日も多くなります。雨降りの日は、登校する子どもたちの傘の花が咲きキレイです。ある調査によれば、傘の平均所有本数、兵庫県は一人4.6本だそうです。これは全国でも上位に入る本数です。雨は少ない地域ですが、傘をたくさん持っていることになりますね。我が家にも傘はたくさんあります。ただ、急な雨などで買った安いビニール傘が多いです。安いと思うと大切にしなくなって、結局小型ゴミの日に捨ててしまうことがあります。付喪神というように、日本は元々、物を大切にする文化があります。最近は安く色々な品物が手に入ります。学校の落とし物などを見ていると、我が家の傘と同じように、もっと大切に思ったりします。参観などでお越しの際には落とし物も是非ご確認ください。

6月18日は水堂小学校の創立記念日です。学校は今年で81歳を迎えます。伝統ある水堂小学校も引き続き大切にしていきたいと思えます。

【6月の行事予定】



日	曜	項 目
1	土	
2	日	
3	月	朝会、委員会活動
4	火	
5	水	6年13時30分下校
6	木	6年修学旅行
7	金	放課後学習、6年修学旅行、定時退勤日
8	土	
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	尿検査(再)
13	木	
14	金	放課後学習、5年13時30分下校、定時退勤日
15	土	

16	日	
17	月	5年自然学校(21日まで)、水泳指導開始
18	火	創立記念日
19	水	
20	木	
21	金	放課後学習、6年アルバム用個人写真 定時退勤日、3年環境体験学習
22	土	
23	日	
24	月	クラブ活動、ステップ漢字週間
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	漢字検定試験、放課後学習、定時退勤日
29	土	月曜校時、オープンスクール2~4校時 学校保健委員会(3校時)
30	日	

【7月の行事予定】7/9~12 個人懇談、7/16 給食終了
7/19 終業式

【学校保健委員会について】

今年度も尼崎医療生協病院産婦人科医西尾美穂医師が性教育についてご講演くださいます。

- ・日時 6月29日(土) 3校時(10:45~)5・6年児童とその保護者、4校時(11:35~)全保護者(自由参加)対象に座談会
- ・場所 体育館

【多層指導モデルMIMを導入しています】

本校では、学習の基盤となる言語能力の育成の手立てとして、1年生の「こくご」の読みの指導において、多層指導モデルMIMを導入しています。多層指導モデルMIMでは、子どもたちが特につまずきやすい「特殊音節」(促音、長音等)に焦点をあてた指導をしていきます。毎月、子どもたちの状況を詳細に把握することで、言葉の習得のつまずきを早期に発見し、早期に支援を実施することが可能となります。

多層指導モデルMIMの活用により、文がスラスラと流暢に読めるようになるための効果的な指導をしていけるよう努めていきたいと考えております。

~職員より~

「明日、おせつたいがあるよ。」

私の祖母が住む島では、毎年「島四国」という行事が行われています。島四国の日には、四国八十八カ所巡りになぞらえて、島内にある札所をお参りします。各札所では、「おせつたい」といって、島の人たちが協力合って参拝する人にお菓子や食事などを振る舞います。

島四国当日。島人だけでなく、この日のために帰省した方や島外からも多くの参拝客が訪れました。普段は穏やかな島が、お賽銭を持った子どもたちで賑わいました。子どもたちは、札所に着くと、お賽銭を渡し、それぞれの願いを込めて手を合わせます。そして、自分が気に入ったお菓子を選びます。

元氣よく入ってくる子どもたちや島の人たちと言葉を交わす祖母たちの嬉しそうな顔を見て、子どもころ、島を歩くと「〇〇さんちの子ねえ。おかえり。」と大きくなってえ。」と迎えてくれた島の人たちの優しい声や、一緒に走り回って遊んだ従兄弟やその友達との懐かしい思い出がよみがえってきました。島の人たちのあたたかいおもてなしに触れ、これからも伝統的な行事や風習を大切にしていきたいと思いました。

2年担任